

ハンガリー政治・経済月報 (2 0 0 4 年 6 月)

平成 1 6 年 7 月
在ハンガリー日本大使館

．内 政

1 . ハンガリー欧州議会議員選挙

(当地メディア報道及び全国選挙事務所 [当国選挙実施機関] ホームページ発表概要
とりまとめ)

(1) 1 3 日、ハンガリーの欧州議会議員議席が実施された。本件選挙の結果、各党
獲得議席は以下のとおり (注、ハンガリーの欧州議会議員議席は 2 4 議席) (括弧
内は支持率) 。国会 4 政党はいずれも足切り条項である 5 % 以上の支持率を獲得し
た。

- ・ 青年民主連盟 (第 1 野党。 F I D E S Z) : 1 2 議席 (4 7 . 4 0 %)
- ・ 社会党 (第 1 与党。 M S Z P) : 9 議席 (3 4 . 4 0 %)
- ・ 自由民主連盟 (第 2 与党。 S Z D S Z) : 2 議席 (7 . 7 4 %)
- ・ ハンガリー民主フォーラム (第 2 野党。 M D F) : 1 議席 (5 . 3 3 %)

(2) 本件選挙投票率はこれまでの当国国会総選挙などに比べ低い水準に留まり、 3
8 . 5 0 % であった (1 7 日の国家選挙委員会の最終発表値) 。

(3) 1 7 日、国家選挙委員会 (当国選挙監督機関) は、本件選挙の在外投票分を含
む最終結果を以下発表した。

(a) 議席獲得政党

政党名	獲得議席	獲得票数	支持率 (%)
青年民主連盟 (F I D E S Z 、第 1 野党)	1 2	1,457,750	47.40
社会党 (M S Z P 、第 1 与党)	9	1,054,921	34.40
自由民主連盟 (S Z D S Z 、第 2 与党)	2	237,908	7.74
ハンガリー民主フォーラム (M D F 、第 2 野党)	1	164,025	5.33

(b) 支持率が 5 % 以下で議席を獲得できなかった政党

政党名	獲得議席	獲得票数	支持率 (%)
ハンガリー正義生命党 (M I E P)	-	72,203	2.35
労働者党	-	56,221	1.83

ハンガリー国家連合 (MNSZ)	-	20,226	0.66
社会民主党 (SZDP)	-	12,196	0.40

(4) 各党関係者コメント(14日付当地紙等)

(a) オルバーンFIDESZ党首

今次選挙結果はFIDESZ党機構改革後の最初の勝利である。投票率が低かったことは残念である。我が党を支持する民意が多数存在したので勝利出来た。

(b) コヴァーチ社会党党首

より高い投票率、よりよい選挙結果を考えていた。FIDESZは我々よりもより良く選挙民を動員した。

(c) クンツェSZDSZ党首

世論調査である今次選挙結果を真摯に受け止め、我が党は政権任期後半の2年間もリベラル派の意見を代表していく。

(d) ダーヴィドMDF党首

98年国会総選挙を最後にMDFにとり苦しい時期が続いたが、今次選挙で独力で議席を獲得したことでそれが終わった。我が党は独自性を有する政党であり、この立場から今後FIDESZとの右派協力につき協議していきたい。

(5) 14日付当地全国紙見出し

(a) ネープサバッチャーグ紙(第1与党社会党寄り)

●主題:「FIDESZが欧州議会選挙で勝利した。」

副題:「市民連盟12議席、MSZP9議席、SZDSZ2議席、MDF1議席を獲得」

(b) マジャール・ネムゼト(第1野党FIDESZ寄り)

●主題:「FIDESZは最初のEUの選挙で勝利」

副題「野党12名、MSZP9名、SZDSZ2名、MDF1名の議員が欧州立法機関に派遣される」

(c) マジャール・ヒールラップ(第2与党SZDSZ寄り)

●主題:「FIDESZ12、MSZP9、SZDSZ2、MDF1議席」

副題:「欧州は新たな議会を選出。消極的な投票率の記録更新。多くの加盟国で野党が勝利」

(d) ネープサヴァ紙(第1与党社会党寄り)

●主題:「野党13、与党11議席」

副題:「ハンガリー選挙民は欧州議会選挙に国際的類似性、中度の積極性で参加した」

「FIDESZがストラスブールに最多の代表を派遣」

2. ナジ元首相処刑記念日行事

(1) ナジ元首相は1956年ハンガリー革命で介入したソ連軍により捕捉され、

カードール政権により1958年6月16日に処刑された。

- (2) 16日、ナジ元首相死後46周年記念行事が行われ、メッジェシ首相はコズマ通りの刑務所前で演説し、用意した原稿には記載していなかったナジ元首相処刑についての謝罪の意を表明した。
- (3) メッジェシ首相は「偉大な者の前に頭を垂れ、ナジ元首相の思い出の前に、56年革命と自由戦争で犠牲となった者皆の前に頭を垂れる」旨述べるとともに、全ハンガリー人が団結する必要性を訴えた。

3. 社会党（第1与党）の動静

- (1) 15日、当国欧州議会議員選挙（13日）を受け、社会党幹部会が開催された。15日当地ラジオは、コヴァーチ党首（外相）が同幹部会終了後、当初明年3月に予定されていた同党の人事刷新党大会を前倒し本年10月15 - 16日に開催し、自身は党首候補には出馬しないとの意向を述べた旨報じた。また16日付当地各紙は、コヴァーチ党首（外相）が同15日幹部会の後、社会党が本年10月に人事刷新を含め議論する党大会を開催する見通しとなったこと、同党首が記者質問に答え、当面は同大会で新たに党首として出馬する意向はないと回答した旨報じた。
- (2) 26日、社会党は臨時の全国評議会を非公開会合として開催し、メッジェシ首相も出席した。
 - (a) 同会合後のメッジェシ首相、コヴァーチ党首（外相）の発言として、同会合では当国欧州議会議員選挙における社会党の敗北についての責任追及ではなく、その原因を確認する議論が行われた。
 - (b) コヴァーチ党首（外相）は、「青年民主連盟（第1野党。FIDESZ）はよりよく選挙民を動員しており、FIDESZの国民投票請願票署名集めは選挙民動員に有効な策だった。社会党地方組織は今後より一層選挙民を動員出来るよう改善されねばならない」と述べた。社会党は、FIDESZのような市民サークルによる支持者集めは行わず、「クラブ」を中心に国民の支持獲得を目指す由。
 - (c) コヴァーチ党首（外相）は、同会合に際し、次期党首選に出馬しない旨述べた。
 - (d) 同会合で、人事刷新党大会を本年10月15 - 16日に開催することが決定された。

4. ゲンツ新機会均等無任所相の就任

- (1) (a) 11日、メッジェシ首相は国会での記者会見で、「6月15日からゲンツ・キング（GONCZ KINGA）保健・社会・家族省政務次官（社会党推薦。ゲンツ前大統領の息女）が機会均等担当無任所相に就任する」と述べた。
- (b) メッジェシ首相はレーヴァイ機会均等担当無任所相（欧州議会議員に転出）の業績を評価しつつ、ゲンツ新大臣の最重要課題として障害者、ホームレスの人々の問題と、高齢者問題審議会の継続的活動の強化を挙げた。
- (c) またメッジェシ首相は、機会均等担当無任所相と保健・社会・家族省の間の業務分担に変更はなく、ケケーニ保健・社会・家族相は引き続き現在の課題に取り組むと述べた。

(2) 1 5 日、ゲンツ新大臣は機会均等担当無任所相は、メツジェシ首相同席の下、マードル大統領に就任宣誓を行い、同大臣職に就任した。

5 . タサール基地の米軍駐留終了

(1) 3 0 日、当国タサール基地 (当国南西部。ブダペストより南西約 1 5 0 キロ) から米軍要員が撤収、米国旗が降ろされ、同基地より米軍が完全撤退、9 年間に及ぶ米軍駐留が終了した。

(2) (a) 同基地での本件記念式典にイヴァンチク国防政務次官、ウォーカー (G E O R G E H . W A L K E R) 在ハンガリー米国大使他、関係者が出席した。

(b) ウォーカー大使は、「米軍はポジティブ・イメージを抱いて帰国する。タサール基地は旧ユーゴにおける和平ミッション、ボスニア及びコソヴォにおける和平構築のため活用され、バルカン情勢に関し世界史における重要な役割を演じた」と述べ、米国大統領の名前でハンガリー政府に対する謝意を表明した。イヴァンチク国防政務次官は、「惜しむ声はあるが、本件協力は終了したのである」旨述べた。

(3) タサール基地は、1 9 9 5 年 1 2 月より 2 0 0 3 年 9 月迄、米軍のロジ基地として使用され、延べ 9 万名以上の米軍兵士が同基地よりバルカンでの活動等に 1 0 0 回以上の出動を行った。また客年 1 月より、米軍は同基地においてイラク系連絡任務要員の訓練を実施した。その後、既に米軍部隊は同基地より撤退、移動を済ませており、現在は文民の連絡、管理要員が残留しているのみだった。

(4) (a) 同基地施設の将来は確定されていない。1 年半後には同基地は閉鎖される予定であり、タサール村、ショモジ県 (タサール所在県) 、及びカボシュヴァール市 (ショモジ県県庁所在地。タサールより西方 5 キロ) が同基地施設 (注、同基地は空軍基地で飛行場を有する) に関心を有している。

(b) ウォーカー駐ハンガリー米国大使は、タサールに米国投資家が関心を有するよう努力すると述べた。メツジェシ首相は 6 月 2 2 日より訪米した際に、ハンガリー側は多国籍企業がハンガリーをロジ・センターとして活用することを希望している旨を米側に繰り返し発言している。

． 外 交

１．ＥＵ関係

（１）１１ - １３日、ＥＵ各国で欧州議会選挙が実施された。ハンガリーは１３日に行われ、ハンガリー全体として割り当てられている２４議席のうち、青年民主連盟（ＦＩＤＥＳＺ、第１野党）が１２議席、社会党（第１与党）が９議席、自由民主連盟（ＳＺＤＳＺ、第２与党）が２議席、ハンガリー民主フォーラム（ＭＤＦ、第２野党）が１議席を獲得した。

（２）１４ - １５日、総務・対外関係欧州理及びＩＧＣ閣僚級会合がルクセンブルクで行われ、当国からはコヴァーチ外相が出席した。

（３）１７ - １８日、欧州理事会及びＩＧＣ首脳級会合がブリュッセルで行われ、当国からはメッジェシ首相及びコヴァーチ外相が出席し、欧州憲法条約について最終合意に達した。

（４）２９日、ブリュッセルにて特別欧州理が開催され、当国からメッジェシ首相が出席した。同会合において、パローゾ現ポルトガル首相が次期欧州委員長として選出された。

２．イラク復興支援

１７日、イラクに駐留するハンガリー部隊が輸送活動中に沿道で爆弾が爆発し、ハンガリー兵１名（ナジ・リチャード伍長：２７歳）が死亡した。その後の調査で、同爆発攻撃はハンガリー部隊を狙ったものではないと発表された。ハンガリー部隊にとってはじめての犠牲者を出す結果となったが、ユハース国防相は、ハンガリー部隊を派遣期限（２００４年１２月３１日）前にイラクから撤退させる予定はないと述べている。２３日、犠牲となったハンガリー兵の葬儀が行われ、マードル大統領、シリ国会議長、ユハース国防相セネシュ参謀総長他が参列した。

３．ＮＡＴＯ・国防関係

２８ - ２９日、イスタンブールにてＮＡＴＯ首脳会合が開催され、当国からメッジェシ首相及びコヴァーチ外相が出席した。同会合では、アフガニスタン支援の更なる強化及びＮＡＴＯ各国部隊の増員、イラク治安部隊訓練の支援等の決定がなされた。

４．二国間関係（要人往来等）

- １日：アリオ・マリー仏国防相、当国訪問。メッジェシ首相、ユハース国防相と会談。

- １日：マルティン英下院議長、リトヴィン・ウクライナ最高評議会議長、当国訪問。マードル大統領、メッジェシ首相、シリ国会議長と会談。

- 6 日：マードル大統領、ドイツ訪問。サッカー・ドイツ代表対ハンガリー代表の親善試合をラウ独大統領とともに観戦した。試合は 2 - 0 でハンガリーがドイツに勝った。同親善試合は、1954 年に開催されたベルン・ワールドカップの決勝戦（独 3 - 洪 2）から 50 周年を記念して開催されたもの。
- 10 - 12 日：胡錦濤中国国家主席、当国訪問。マードル大統領、メッジェシ首相、シリ国会議長他経済関係者等と会談。胡主席は、ハイレベルの代表団を伴って当国を訪問し、マードル大統領と友好協力パートナーシップ関係の確立に関する共同政治宣言に署名を行った。同宣言では、台湾は中国の一部であることが確認されている。
- 11 日：レーガン元米大統領の葬儀がワシントンで行われ、当国からマードル大統領の代理としてロムニチ最高裁判所長官が参列した。
- 19 - 25 日：メッジェシ首相、米国訪問。ブッシュ大統領（コヴァーチ外相同席）、パウエル国務長官他、アナン国連事務総長と会談。メッジェシ首相の米国公式訪問はこれで 2 度目。
- 22 - 25 日、Abdul Hadi Majali ヨルダン下院議長、当国訪問。マードル大統領、シリ国会議長、キシュ首相府相他と会談。

． 経 済

１．２００４年第１四半期ＧＤＰ成長率の発表（３日付け経済紙（ＥＣＯＮＥＷＳ））

（１）２日、中央統計局は、ハンガリーの２００４年第１四半期成長率速報値が前年同期比４．２％となった旨発表した。

（２）アナリストらは、２００４年第１四半期成長率は３．１％～４．２％と予測し、３．６％がコンセンサス値となっていた。

（３）季節変動調整後の数値によれば、２００３年第３四半期ＧＤＰ成長率は前期比０．８％、第４四半期は同１．０％の伸びであったが、２００４年第１四半期ＧＤＰ成長率は２００３年第４四半期に対し１．１％の伸びとなった。

（４）ＧＤＰ成長率の力強い伸びは、建設業と特定の工業分野の付加価値増加による。商品生産セクターは、１－３月で前年同期比７．２％の伸びとなり、サービスセクターでは、前年比３．２％の伸びとなった。

（５）投資は２００３年の第４四半期では４．７％であったが、２００４年第１四半期は１８．９％と顕著な伸びを示し、今回の高いＧＤＰ成長率に大きく貢献した。

（季節変動調整後の投資流入額は２００３年第４四半期から４．６％の伸びとなった。）

（６）２００３年通年のＧＤＰ成長率は２．９％であり、同年第２四半期は２．４％、第３四半期は２．９％、第４四半期は３．６％であった。また、２００２年のＧＤＰ成長率は３．５％であった。

２．（７月５日）欧州蔵相会議においてハンガリーの２００８年までの経済収斂プログラムを承認

（１）５日、ブラッセルで開催された欧州蔵相会議において、ハンガリーのユーロ導入へ向けた経済収斂プログラムが承認された。このプログラムでは経済成長を促進しつつも、今後の３年間の財政赤字のＧＤＰ比を０．５％ずつ削減することとなっており、同時に税率の引き下げも計画されている。

（２）ハンガリーの経済収斂プログラムについて、高い財政赤字と対外債務について問題視する向きもあったが、今回は特段の警告は発せられなかった。これについて、ドラシュコヴィッチ財務大臣は、喜ばしい結果として歓迎するとしている。

（３）２００８年までのハンガリーの経済収斂計画は以下のとおり。

ＧＤＰ成長率	インフレ率	財政赤字	対外債務	（数値％）
２００３年	２．９	４．７	５．９	５９．１
２００４年	３．３－３．５	６．５	４．６	５９．４
２００５年	３．５－４．０	４．５	４．１	５７．９
２００６年	４．０	４．０	３．６	５６．８
２００７年	４．０－４．５	３．５	３．１	５５．６
２００８年	４．５－５．０	３．０	２．７	５３．７

3. (7月7日) MOL に露ユコス問題の影響なし

(1) MOL の最高経営責任者であるジョルジ・モショニ (Gorgy Mosonyi) 氏は、ユコス社の輸送にかかる潜在的問題により、ハンガリーが自国の石油備蓄分を取り崩すことはあり得ないとした。同氏は、MOL は要すれば一夜のうちにサプライヤーを替えることも可能であり、また、ハンガリーの需要を保証するだけの供給量と供給時期について露のエネルギー当局からの承認を得ているとした。

(2) 同氏によれば、ユコスの油田が原油生産を停止することは、油田を密閉することの技術的困難性から言っても有り得ず、より有り得べきシナリオとしては、別の生産者が採掘された原油を引き継ぐことが考えられるとのこと。この場合、輸送に問題は生じず、唯一の変更点は、MOL が別の口座に輸送にかかる資金を預託することのみである。

4. (7月7日) パクシュ原子力発電所の2号炉(ブロック□)の試験運転

(1) パクシュ原子力発電所の最高経営責任者であるイシュトヴァーン・コチシュ (Istvan Kocsis) 氏によれば、シャットダウンされている2号炉の試験運転を7月若しくは8月初に予定しているとのこと。同炉がいつから通常運転を開始するのかは不明だが、同発電所の2004年の事業計画によれば、2号炉は年間130日間運転することとされている。また、同氏によれば、今年前半の数字からすると、同発電所の損失は今年目標額である47億フォリントを超えることはないと思込まれる。

(2) パクシュ原子力発電所はMVM (ハンガリー電力会社) との間で10,584 GWhの電力を販売する旨の契約を締結しており、6月末までに既に5,108 GWhがMVMに対して販売されている。同発電所は2004年1～4月の間、1kWh当たり8.3フォリントで販売しておりこれはハンガリーで最も低い価格である。

(3) コチシュ氏によれば、2号炉の修復は順調に進んでおり、また、同発電所は4つの反応炉全ての発電能力を8%増大させ2,000 MWとするため、50億フォリントのプロジェクトを準備中である。加えて、同発電所では、2007年～2012年の間に1,300億～1,500億フォリントを投じて反応炉の寿命を20～30年延ばすことを計画している。これに必要な資金は自己資金を用いる予定である。なお1号炉(ブロック□)は2012年で製造後30年を迎える。

(本資料は当該月間のハンガリー紙等の報道をベースにとりまとめたものです。)